

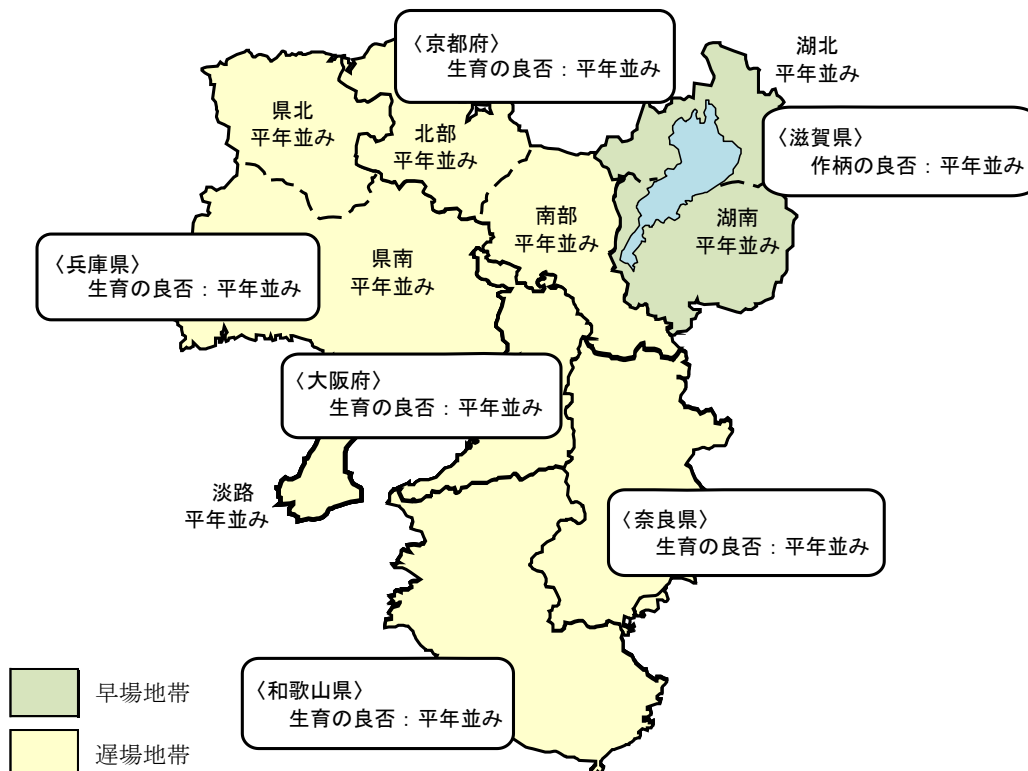
平成30年産水稻の8月15日現在における作柄概況 及び生育状況（近畿）

- 8月15日現在の早場地帯の作柄は「**平年並み**」の見込み、
- 遅場地帯の生育は「**平年並み**」で推移

【調査結果の概要】

- 早場地帯（滋賀県）の作柄は、「**平年並み**」と見込まれる。
- 遅場地帯（滋賀県を除く5府県）の生育は、「**平年並み**」で推移している。

図 水稻の府県・作柄表示地帯別作柄概況及び生育状況（8月15日現在）
（平年比較）



- 早場地帯とは、8月15日現在の出穂済面積割合が平年ベースでおおむね8割以上を占める19道県であり、近畿では滋賀県が該当する。また、遅場地帯とは、早場地帯の道県以外の都府県であり、近畿では滋賀県を除く2府3県が該当する。
- 本調査の作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

本資料は、近畿農政局ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/kinki/toukei/toukeikikaku/yotei/2018.html> 】

この統計調査における調査の目的及び対象などは【調査の概要】7ページに掲載しています。

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎ 累年データ

水稻（子実用）の年次別推移

1 近畿

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成20年産	110,800	521	577,500	109,900	572,700	103
21	110,500	499	551,800	109,400	546,100	98
22	110,500	500	552,000	109,000	544,800	98
23	109,300	504	551,200	107,700	542,800	99
24	109,100	515	561,400	107,400	552,700	101
25	109,400	518	567,200	106,900	554,000	102
26	108,000	497	537,100	104,500	519,900	98
27	105,800	508	537,200	101,900	517,700	100
28	104,500	516	538,700	100,500	519,000	102
29	103,200	510	526,600	99,400	507,000	100

資料：農林水産省統計部『作物統計』（2～7の統計表において同じ。）

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である（2～7の統計表において同じ。）。

2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mm のふるい目幅で選別された玄米の重量である（2～7の統計表において同じ。）。

3 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である（2～7の統計表において同じ。）。

4 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（近畿は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。なお、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である（2～7の統計表において同じ。）。

2 滋賀県

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成20年産	33,200	530	176,000	32,700	173,300	102
21	33,200	512	170,000	32,700	167,400	99
22	33,100	516	170,800	32,500	167,700	100
23	32,700	513	167,800	32,100	164,700	99
24	32,800	529	173,500	32,200	170,300	102
25	33,400	529	176,700	32,000	169,300	102
26	33,000	502	165,700	31,300	157,100	97
27	32,200	518	166,800	30,600	158,500	100
28	31,900	534	170,300	30,200	161,300	104
29	31,700	517	163,900	30,000	155,100	100

3 京都府

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成20年産	15,800	522	82,500	15,700	82,000	102
21	15,800	486	76,800	15,700	76,300	95
22	15,800	504	79,600	15,700	79,100	99
23	15,600	508	79,200	15,400	78,200	99
24	15,600	519	81,000	15,400	79,900	102
25	15,500	530	82,200	15,300	81,100	104
26	15,200	507	77,100	14,900	75,500	99
27	15,000	510	76,500	14,400	73,400	100
28	14,800	516	76,400	14,300	73,800	101
29	14,700	510	75,000	14,100	71,900	100

4 大阪府

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成20年産	5,850	508	29,700	5,850	29,700	103
21	5,840	495	28,900	5,840	28,900	100
22	5,820	486	28,300	5,820	28,300	98
23	5,740	502	28,800	5,730	28,800	101
24	5,680	507	28,800	5,670	28,700	102
25	5,640	502	28,300	5,630	28,300	101
26	5,550	495	27,500	5,540	27,400	100
27	5,440	495	26,900	5,440	26,900	100
28	5,310	505	26,800	5,310	26,800	102
29	5,150	506	26,100	5,150	26,100	102

5 兵庫県

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成20年産	38,700	519	200,900	38,400	199,300	103
21	38,700	493	190,800	38,200	188,300	98
22	38,800	486	188,600	38,100	185,200	96
23	38,400	494	189,700	37,600	185,700	98
24	38,300	502	192,300	37,500	188,300	100
25	38,400	506	194,300	37,500	189,800	100
26	37,900	487	184,600	36,500	177,800	97
27	37,300	501	186,900	35,700	178,900	99
28	37,000	501	185,400	35,400	177,400	100
29	36,600	501	183,400	35,100	175,900	100

6 奈良県

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成20年産	9,500	520	49,400	9,500	49,400	101
21	9,340	511	47,700	9,310	47,600	100
22	9,360	505	47,300	9,330	47,100	98
23	9,330	519	48,400	9,270	48,100	101
24	9,250	523	48,400	9,200	48,100	102
25	9,190	527	48,400	9,150	48,200	103
26	9,060	514	46,600	9,040	46,500	100
27	8,870	515	45,700	8,850	45,600	100
28	8,710	525	45,700	8,680	45,600	102
29	8,610	521	44,900	8,580	44,700	102

7 和歌山県

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成20年産	7,730	505	39,000	7,730	39,000	102
21	7,650	491	37,600	7,650	37,600	100
22	7,620	491	37,400	7,620	37,400	99
23	7,590	492	37,300	7,590	37,300	99
24	7,430	504	37,400	7,430	37,400	102
25	7,380	506	37,300	7,380	37,300	102
26	7,230	492	35,600	7,230	35,600	99
27	6,900	499	34,400	6,900	34,400	101
28	6,720	507	34,100	6,720	34,100	102
29	6,560	507	33,300	6,560	33,300	102

【調査結果】

1 早場地帯（滋賀県）の作柄概況

- (1) 穂数は、田植期以降、おおむね天候に恵まれたことから「平年並み」と見込まれる。
- (2) 1穂当たりもみ数は、穂数が「平年並み」と見込まれることと、7月以降も順調に生育していることから「平年並み」と見込まれる。
- (3) 全もみ数は、穂数及び1穂当たりもみ数が「平年並み」と見込まれることから「平年並み」と見込まれる。
- (4) 登熟は、出穂期以降の気温及び日照時間が平年を上回って推移しているものの、夜温も平年を上回り推移していることから「平年並み」と見込まれる。
- (5) これらのことから、8月15日現在における滋賀県の作柄は「平年並み」と見込まれる。

2 遅場地帯（滋賀県を除く5府県）の生育状況

- (1) 生育は、田植期以降、6月に日照時間が平年を下回った時期があったものの、全般的には高温・多照で経過したことから、京都府の草丈及び茎数は「平年並み」となった。その他の府県では、草丈は「やや短い」となり、茎数は、大阪府が「やや多い」となったほかは「平年並み」となった。
- (2) このことから、8月15日現在における遅場地帯全府県の生育は「平年並み」で推移している。

3 被害の状況

平成30年7月豪雨により、冠水等の風水害が発生したが被害程度は全般的に軽微であった。また一部のほ場では、獣害等の発生がみられる。

表1 平成30年産水稻の府県・作柄表示地帯別田植及び出穂の状況（8月15日現在）

区分	田 植 期						出 穂 期					出穂済面積割合	
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		始期	最盛期	終期	最盛期の比較		当年値	対平年差	
				対平年差	対前年差				対平年差	対前年差			
滋 賀	4.30	5.8	5.29	2日早	1日早	7.23	7.28	8.14	4日早	1日早	97	3	
湖 南	4.28	5.6	5.27	2日早	1日早	7.22	7.27	8.14	4日早	1日早	96	2	
湖 北	5.2	5.11	6.1	並み	並み	7.23	7.29	8.11	3日早	1日早	98	3	
京 都	5.5	5.22	6.6	1日早	1日遅	7.22	7.31	...	3日早	1日早	84	1	
南 部	5.5	5.27	6.16	並み	並み	7.22	8.4	...	4日早	1日早	70	2	
北 部	5.5	5.16	5.26	1日早	2日遅	7.21	7.25	8.5	3日早	1日早	99	0	
大 阪	5.17	6.8	6.20	並み	並み	8.1	27	0	
兵 庫	5.12	6.3	6.15	1日早	並み	7.27	8.8	...	4日早	1日早	64	1	
県 南	5.11	6.5	6.18	並み	並み	7.27	8.9	...	4日早	1日早	59	2	
県 北	5.7	5.14	5.22	2日早	並み	7.19	7.23	8.3	7日早	2日早	100	0	
淡 路	5.28	6.17	6.27	1日早	並み	8.2	48	1	
奈 良	5.7	6.8	6.14	並み	並み	7.28	30	0	
和 歌 山	5.2	6.3	6.17	1日早	1日早	7.18	8.5	...	2日早	2日早	84	△1	

注：1 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。

2 出穂期の「最盛期」及び「終期」の欄の「…」は、8月15日現在でそれぞれの期日に達していないことを示す。

3 出穂済面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを示す。

表2 平成30年産水稻早場地帯（滋賀県）の作柄表示地帯別作柄概況
（8月15日現在）

区 分	平 年 比 較				
	作柄の良否	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数の 多 少	登熟の良否
滋 賀	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
湖 南	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
湖 北	平年並み	平年並み	やや少ない	平年並み	平年並み

注： 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや不良・やや少ない」が98～95%、「不良・少ない」が94%以下に相当する。

表3 平成30年産水稻遅場地帯（滋賀県を除く5府県）の
作柄表示地帯別生育状況（8月15日現在）

区 分	平 年 比 較		
	生育の良否	草丈の長短	茎数の多少
京 都	平年並み	平年並み	平年並み
南 部	平年並み	平年並み	平年並み
北 部	平年並み	平年並み	平年並み
大 阪	平年並み	やや短い	やや多い
兵 庫	平年並み	やや短い	平年並み
県 南	平年並み	やや短い	平年並み
県 北	平年並み	やや短い	平年並み
淡 路	平年並み	平年並み	平年並み
奈 良	平年並み	やや短い	平年並み
和 歌 山	平年並み	やや短い	平年並み

注： 生育状況は、草丈の長短、茎数の多少等の計測結果、生育の遅速、被害の発生状況等を総合して、8月15日現在における稲体の生育状態を調査したもので、作柄を予測したものではない。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作柄概況調査として実施したものであり、水稻の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に実施している。

3 調査対象筆数

滋賀県	作況標本筆：210筆	作況基準筆：8筆
京都府	作況標本筆：150筆	作況基準筆：16筆
大阪府	作況標本筆：50筆	作況基準筆：21筆
兵庫県	作況標本筆：230筆	作況基準筆：11筆
奈良県	作況標本筆：100筆	作況基準筆：8筆
和歌山県	作況標本筆：100筆	作況基準筆：6筆

4 調査事項

は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期日

平成30年8月15日現在における水稻の生育・作柄概況を調査した。

6 調査・集計方法

職員又は統計調査員による作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査により行った。なお、職員又は統計調査員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめている。

7 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等を指す。
- (2) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率である。
なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していたが、平成27年産以降の作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（近畿は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

また、10a当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合

いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。

- (3) 「作柄の良否」とは、10 a 当たり予想収量が平年と比較して多いか少ないかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (4) 「穂数の多少」とは、1 m² 当たりに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (6) 「全もみ数の多少」とは、1 m² 当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (7) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (8) 「生育の良否」とは、草丈の長短、茎数の多少等の計測結果、生育の遅速、被害の発生状況等を総合して稲体の生育が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (9) 「草丈の長短」とは、地際から一番長い葉先までの長さ（枯れ葉を含む。）が平年と比較して長いか短いかを表しており、長い、やや長い、平年並み、やや短い、短いの5段階で表している。
- (10) 「茎数の多少」とは、主かんと分けつを合計した茎数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (11) (4)から(7)、(9)及び(10)の平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した1 m² 当たり穂数等の平年値との比較である。
- (12) 「作柄表示地帯」とは、水稻作況調査における調査結果の分析、検討、提供及び利用のため、地域行政上必要な水稻の作柄を表示する区域として、都道府県内を水稻の生産力（地形、気象、栽培品種等）により分割した区域をいう。
なお、大阪府、奈良県及び和歌山県は設定していない。
近畿各府県の作柄表示地帯の包括範囲は次表のとおりである。

府県名	作柄表示地帯名	市 町 村 名
滋賀	湖南	大津市、彦根市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、東近江市、日野町、竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
	湖北	長浜市、高島市、米原市
京都	南部	京都市、宇治市、亀岡市、城陽市、向日市、長岡京市、八幡市、京田辺市、南丹市、木津川市、大山崎町、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村、京丹波町
	北部	福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町
大阪	-	大阪市、堺市、岸和田市、豊中市、池田市、吹田市、泉大津市、高槻市、貝塚市、守口市、枚方市、茨木市、八尾市、泉佐野市、富田林市、寝屋川市、河内長野市、松原市、大東市、和泉市、箕面市、柏原市、羽曳野市、門真市、摂津市、高石市、藤井寺市、東大阪市、泉南市、四條畷市、交野市、大阪狭山市、阪南市、島本町、豊能町、能勢町、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町、太子町、河南町、千早赤阪村
兵庫	県南	神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、芦屋市、伊丹市、相生市、加古川市、赤穂市、西脇市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、三田市、加西市、篠山市、丹波市、宍粟市、加東市、たつの市、猪名川町、多可町、稲美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町
	県北	豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町
	淡路	洲本市、南あわじ市、淡路市
奈良	-	奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、五條市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、宇陀市、山添村、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、曽爾村、御杖村、高取町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村
和歌山	-	和歌山市、海南市、橋本市、有田市、御坊市、田辺市、新宮市、紀の川市、岩出市、紀美野町、かつらぎ町、九度山町、高野町、湯浅町、広川町、有田川町、美浜町、日高町、由良町、印南町、みなべ町、日高川町、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町

8 利用上の注意

(1) 統計数値については、次の方法で四捨五入している。

原数		6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数 (下から)		2 桁		1 桁	四捨五入 しない
例	四捨五入する前 (原数)	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値 (統計数値)	123,500	12,300	1,230	123

(2) この資料に掲載された数値等を他に転載する場合は、「平成30年産水稻の8月15日現在における作柄概況及び生育状況(近畿)」(近畿農政局)による旨を記載してください。

9 その他

本調査における作柄概況（8月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

- 近畿の統計調査結果は、近畿農政局ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/kinki/toukei/> 】

- 全国の統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼肥料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y2 】

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞政策統括官

http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/

【お問合せ先】

- ◎本統計調査結果について

近畿農政局統計部生産流通消費統計課

電話：（代表） 075-451-9161 内線 2654

（直通） 075-414-9650

F A X : 075-417-2067

- ◎農林水産統計全般について

近畿農政局統計部統計企画課

電話：（代表） 075-451-9161 内線 2623

（直通） 075-414-9620

F A X : 075-417-2067



政府統計

政府統計の総合窓口

(e - S t a t)

<http://www.e-stat.go.jp/>



平成30年11月1日現在で、水産業を営んでいる方などを対象に、2018年漁業センサスを実施します。
（流通加工調査については平成31年1月1日現在）

調査票が届きましたら、記入の御協力をお願いいたします。
また、調査票はオンラインによる回答も可能です。